

# 中一 国語科通信

第3号  
令和4年2月7日  
国語科1年担当  
組之内・綾間・奥池



サモトラケのニケの翼のかたちとして  
白木蓮の花咲き初むる

## 石丸青葉さんの作品が入賞。 ラジオ朗読も。

第46回 J A「こはん・お米とわたし」作文・  
・ 図画コンクールの作文部門で、石丸青  
葉さん(一組)の作品が銅賞を受賞しま  
した。入賞作品は J A 宮崎中央会ホーム  
ページに掲載されているほか、2月9日  
(水)午後12:30~12:40、MRT「ラジオ」ス  
イッチ音タイム」内で朗読されるそう  
です。  
全文を紹介します。

### 魔法のおにぎり

石丸青葉



私は「こはんかパンか」と問われるとパン派です。お米はよく噛めば、甘みが増して、よりおいしくなります。しかし、私はいつも、甘くなる前に飲み込んでしまいます。一方、パンは多くの種類がある分、いろいろな味もあるため飽きることなく食べられます。そのため、我が家の朝食は毎日パンです。毎日食べているパンの中で、特にクリームパンが好きです。よく噛まなくても、口に入れた瞬間甘みが広がるからです。しかし、パンが好きでも、一つだけパンに勝る食べ物があります。それは、おにぎりです。コンビニのおにぎ

りや、母の作るおにぎりもおいしいけれど、中でも、祖母の作るおにぎりが大好きです。

私は小学生の頃、学校からの下校途中、毎日のように祖母の家に寄っていました。いつからか祖母は、おやつとして、おにぎりを作ってくれるようになりました。祖母の作るおにぎりには、いろいろな種類がありました。お茶漬の素を使ったおにぎり、砂糖じょうゆ味のお肉を入れたおにぎり、焼き鮭をほぐして入れたおにぎりなどを作ってくれました。

祖母の作るおにぎりの中で、私が一番好きなのは、梅おおかおにぎりです。祖母は手作りの梅干しを使っています。少しすっぱいけれど、それがまたおいしいです。私が飽きないように、味や具材を工夫してくれる祖母に、いつも優しさを感じました。

私は中学受験のために、塾に通っていました。家に帰るの夜遅くなるため、夕食が午後九時以降になることがほとんどでした。また、スイミングスクールにも通っていました。たくさん運動し、体力を使いました。習い事の途中で、私のお腹が鳴ってしまうかどうかは、祖母のおにぎりにかかっています。上級生になり体も大きくなると、祖母が気を利かして、おにぎりの数が一個から二個、そして三個へと変わりました。私の中で、おにぎりの数が増えたことは、とても大きなことでした。おかげで、習い事の途中、お腹が鳴らなくなりました。

祖母は台所に立って、おにぎりを作ります。必ず私に「今日の学校どうだった?」と聞いてくれます。私はその、祖母の優しい声が好きです。私は、祖母が台所に立っておにぎりを作る姿をいつも見ていました。祖母のおにぎりを作る背中はとても頼もしく、かっこいいです。その背中に憧れて、私は料理を作ることに興味を持ち始めました。最初は、祖母の料理のお手伝いをしていました。包丁を持つのもつたなくて、危なっかしい私を、いつも祖母は温かく見守ってくれました。今では、母の助けを借りながら、料理を作れるようになりました。料理が得意になったのは、祖母と母とおにぎりのおかげです。

私が祖母のおにぎりを食べて、「おいしい」と喜んだように、私も家族におにぎりを作ったことがありますが、父には、作ったことがありません。父は今、単身赴任で台湾に住んでいます。台湾にも、おにぎりはあります。しかし、台湾人向けに作られたおにぎりは、少しパサパサしていて、味も日本人の父には、あまり合わないそうです。父は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、日本になかなか帰省することが出来ていません。父が日本に帰ってきたら、私が作った、ほかほかのおにぎりを食べてもらおうと思います。また家族そろって、私の作ったおにぎりを食べてもらい、食卓に笑顔がふれることを思うとワクワクします。

私には目標があります。いつか、私のおにぎ

### 「紙一重」

狭間千穂

「ラムマソン」 第三回  
おにぎりと聞いて思い出すのは、日本を代表する画家・山下清。知的な障害のあった彼は、日本各地を旅しながら作品を描いた。地元住民の善意でおにぎりをもらうこともあれば、障害を馬鹿にされることもあったが、彼が次の場所に向かった後、残された作品を見て「あれは山下清だったのか」と人々が驚く……というのがドラマのお決まりのパターンだった。

今朝、車で走っていると、押しボタンス式横断歩道を一人のおばあちゃんが渡っていた。全身グレーの、似たような服を着て、同じような帽子をかぶり、一人は杖をついてゆっくりゆっくり渡っていた。普段ならなかなか止められない横断歩道だったからか、先頭に止まっていた車は、青になるやいなやものすごい音と勢いで走って行った。朝の忙しい時間に信号で止められたことにイライラしていたのだろうな、というような走り去り方だった。この世に、障害を持ちたくて生まれた人はいないだろうし、「健常」かそうでないかの差なんて、紙一重だ。あなたも私も、いつでも「どちら側の人」になる可能性を持つてる。そんな簡単なこともわからないで、自分とは違う人を馬鹿にするようなヤツは、最低最悪のクズ人間だ。

私の師匠である祖母に、おにぎりを作り、祖母をうならせることです。そのために、これからは、学校が休みの日の朝食には、おにぎりを作る練習をしようと思っています。

あなたのことを大切に思っている人が必ずいます。そのことを忘れないでね。